

ユニー

環境コミュニケーション

レポート 2022



お客さまと共に持続可能な社会の実現をめざしています

環境理念

地球規模での環境破壊が深刻化している今日、
脱炭素社会・循環型社会・自然共生社会を実現させた持続可能な社会を構築するために、
ユニーは企業活動を通して貢献します。

持続可能な社会をめざして

現在のことだけでなく未来に向かって地球環境を壊さずに、
人間や地球の生き物が共存していく社会を構築していくこと、
この未来に続く仕組みが持続可能な社会です。

エコストア、 ステキな未来へはじめての一步

お買い物をする際の、ほんのちいさなエコゴコロが地球の未来を救います。
10年後、20年後の地球の未来を快適なものにするために、
ユニーと一緒に地球環境にやさしい生活を始めてみませんか？

脱炭素社会

CO₂など温室効果ガス
発生抑制をめざす社会

持続可能な社会

循環型社会

限りある資源を大切に、
3Rを実践する社会

自然共生社会

生物多様性を
実現する社会



ユニーでは、エコ・ファーストの約束達成のためISO14001マネジメントシステムを活用し、具体的な環境目標を設定しています。持続可能な社会をめざし、企業活動を通して脱炭素社会、循環型社会、自然共生社会の実現のためお客さまと一緒に「環境にやさしいお買い物」を推進します。

環境方針	2021年度結果(2021年4月1日~2022年3月)	評価	2022年度目標(2022年4月1日~2023年3月)
環境マネジメントシステムの構築	<ul style="list-style-type: none"> ●環境大臣とのフォローアップは実施されなかった ●エコ・ファーストの約束をISO14001実施計画に組み込み活動した 	○	<ul style="list-style-type: none"> ●エコ・ファーストの約束のフォローアップを環境大臣と行う ●エコ・ファーストの約束をISO14001実施計画に組み込み活動する
	<ul style="list-style-type: none"> ●エコ・ファーストの約束の達成に向けた取り組みを推進した 	○	●エコ・ファーストの約束の達成に向けた取り組みを推進
エコストアの実現	<ul style="list-style-type: none"> ●環境配慮型オリジナル商品「ecolon」の認知及び売上拡大を図った 	○	●環境配慮型オリジナル商品「ecolon」の認知及び売上拡大を図る
	<ul style="list-style-type: none"> ●環境配慮型オリジナル商品「ecolon」のバリューチェーンの環境負荷低減効果を見る化しお客さまに訴求した 	○	●環境配慮型オリジナル商品「ecolon」のバリューチェーンの環境負荷低減効果を見る化しお客さまに訴求する
環境負荷の低減	<ul style="list-style-type: none"> ●環境マネジメントシステムを通して、省エネ教育の継続と強化を行った 	○	●環境マネジメントシステムを通して、省エネ教育の継続と強化
	<ul style="list-style-type: none"> ●CO2排出量 原単位で2020年度対比89.4% 	○	●省エネの取り組みとしてCO2を原単位で2021年度対比3%削減
	<ul style="list-style-type: none"> ●各使用エネルギーを削減 2020年度対比 電気使用量96.9% ガス使用量81.7% 重油使用量92.5% 	○	●各使用エネルギーを2021年度対比3%削減
	<ul style="list-style-type: none"> ●物流の合理化による環境負荷低減を図った 2020年度対比 輸送距離92.5% 原油換算100.5% 	△	●物流の合理化による環境負荷低減を図る
	<ul style="list-style-type: none"> ●段ボール使用量 2020年度対比98.6% 	×	●段ボール使用量を2021年度対比3%削減
	<ul style="list-style-type: none"> ●PB商品の容器包装資材の軽減化を図った PB商品容器包装資材重量 2020年度対比90.3% 	○	●PB商品の容器包装資材の軽減化を図る
	<ul style="list-style-type: none"> ●包装資材重量 2020年度対比98.2 	×	●包装資材重量を2021年度対比3%削減
	<ul style="list-style-type: none"> ●レジ袋辞退率 88.3% 	×	●レジ袋辞退率 89.7%
廃棄物の適正処理とリサイクル推進	<ul style="list-style-type: none"> ●廃棄物総排出量 2020年度対比99.0% 	×	●廃棄物総排出量2021年度対比3%削減
	<ul style="list-style-type: none"> ●食品リサイクルループの取り組みを全店で継続した 	○	●食品リサイクルループの取り組みを全店で継続
	<ul style="list-style-type: none"> ●発生抑制 売上高100万円当り 25.8kg ●再生利用等実施率 87.9% 	○	<ul style="list-style-type: none"> ●発生抑制 売上高100万円当り 24.7kg ●再生利用等実施率 88.4%
	<ul style="list-style-type: none"> ●ペットボトル店頭回収量 2020年度対比94.4% ●牛乳パック店頭回収量 2020年度対比93.7% ●アルミ缶店頭回収量 2020年度対比97.1% ●食品トレー店頭回収量 2020年度対比91.6% 	×	<ul style="list-style-type: none"> ●全店4品目を回収 ●リサイクル回収量を増やす
	<ul style="list-style-type: none"> ●バイオマスプラスチック製容器包装の使用を促進した 青果透明カップ約100%含有、青果カットねぎカップ55%、 クールオンパッケージ10% 	○	●バイオマスプラスチック製容器包装の使用を促進する
環境情報の開示と環境保全活動	<ul style="list-style-type: none"> ●環境配慮型オリジナル商品「ecolon」の拡販した 売上2020年度対比143.2% 	○	●環境配慮型オリジナル商品「ecolon」の拡販
	<ul style="list-style-type: none"> ●グリーンキャンペーン全店で年1回実施 参加人数1420人 	△	●グリーンキャンペーン全店で年2回実施する
	<ul style="list-style-type: none"> ●従業員への環境教育の継続・強化した 	○	●従業員への環境教育の継続・強化
	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども環境学習、出張講座(小学校等)の継続実施した 小中学校見学受入れ2,993人 出張講座(小学校等)323人 	○	●子ども環境学習、出張講座(小学校等)の継続実施
	<ul style="list-style-type: none"> ●ミニエコ博開催 参加人数100人 	○	●定期的なエコ博の開催
	<ul style="list-style-type: none"> ●環境関連事業者(取引先)連絡会セミナーはコロナ禍のため開催なし 	×	●環境関連事業者(取引先)連絡会セミナー開催
環境汚染防止	<ul style="list-style-type: none"> ●排水水質検査全店実施、基準値以内法令遵守 ●低濃度PCBの適正管理を実施 	○	<ul style="list-style-type: none"> ●全店舗での排水水質監視を実施 ●低濃度PCBの適正管理
	<ul style="list-style-type: none"> ●フロン排出抑制法の対応をISO目標として法令遵守 	○	●フロン排出抑制法の適正対応を実施
	<ul style="list-style-type: none"> ●廃棄物処理法の適正対応を実施した 	○	●廃棄物処理法の適正対応を実施



全店舗に廃棄物計量システムを導入し、廃棄物の発生抑制やリサイクルを推進しています。

ユニーで発生するゴミ

廃棄物排出量

*データは2017年度は2月21日～翌年2月20日まで、2018年度は2月21日～翌年2月28日まで、2019年度は3月1日～翌年2月29日まで、2020年度以降は4月1日～翌年3月31日までのものです。

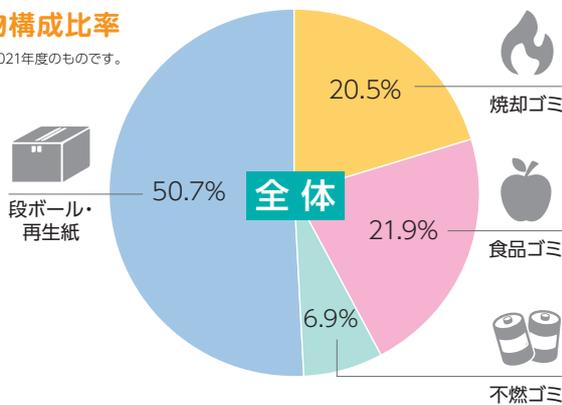
(単位:t)

区分	種類	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	前年比[%]	
可燃ゴミ	焼却ゴミ							
	一般可燃ゴミ	11,536	11,204	10,219	8,012	8,149	101.7	
	ビニール(食品系)	3,903	3,697	3,216	2,625	2,496	95.1	
	小計	15,440	14,901	13,435	10,637	10,645	100.1	
	生ゴミ	12,395	11,736	10,508	8,517	8,610	101.1	
	魚のアラ	2,141	1,931	1,694	1,374	1,360	99.0	
可燃ゴミ	てんかす	918	833	787	652	651	99.8	
	廃食用油	1,182	1,119	1,019	870	778	89.4	
	小計	16,636	15,618	14,009	11,413	11,399	99.9	
	不燃ゴミ	発泡スチロール	734	673	607	544	528	97.1
		プラスチック	417	394	402	334	322	96.4
ビニール(衣、住系)		885	884	802	670	613	91.5	
ビン		1,532	1,530	1,387	1,223	1,250	102.2	
缶		449	427	381	321	301	93.8	
ペットボトル		439	469	418	350	324	92.6	
陶器・ガラス		122	148	120	106	99	93.4	
金属ゴミ		144	141	124	104	98	94.2	
その他		93	102	94	76	67	87.9	
小計		4,815	4,768	4,335	3,728	3,602	96.6	
紙類	段ボール	36,289	34,307	30,896	25,057	24,815	98.6	
	紙類(再生可)	2,423	2,283	2,006	1,621	1,490	91.9	
	小計	38,712	36,590	32,902	26,678	26,305	98.6	
合計		75,603	71,877	64,681	52,456	51,951	99.0	

※端数を四捨五入処理しているため、合計数値と一致しない場合があります。

廃棄物構成比率

※データは2021年度のものです。



廃棄物総排出量の推移

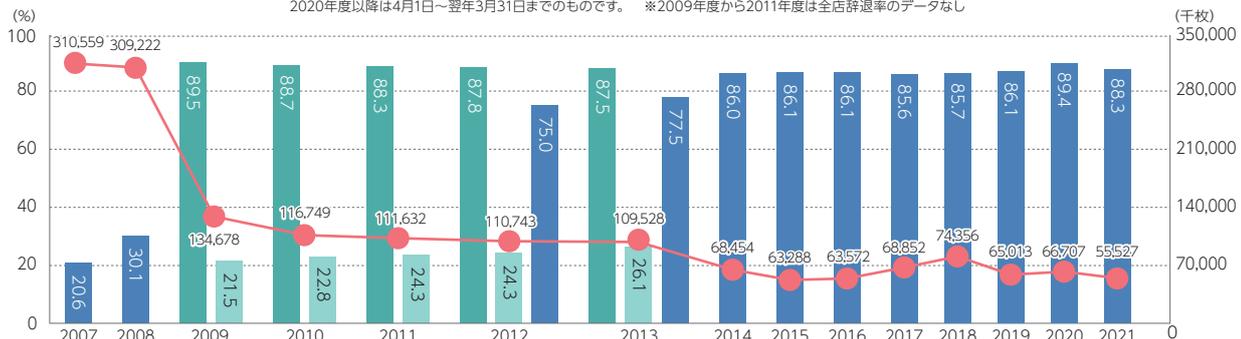
(単位:t)



レジ袋辞退率の推移とレジ袋使用量の推移について

レジ袋辞退率の推移

■ 全店辞退率 ■ 有料化店舗 ■ 非有料化店舗 ● 枚数(単位:千枚)
 ※データは2017年度までは2月21日～翌年2月20日まで、2018年度は2月21日～翌年2月28日まで、2019年度は3月1日～翌年2月29日まで、2020年度以降は4月1日～翌年3月31日までのものです。 ※2009年度から2011年度は全店辞退率のデータなし





店頭リサイクル回収実績

※データは2017年度は2月21日～翌年2月20日まで、2018年度は2月21日～翌年2月28日まで、2019年度は3月1日～翌年2月29日まで、2020年度以降は4月1日～翌年3月31日までのものです。

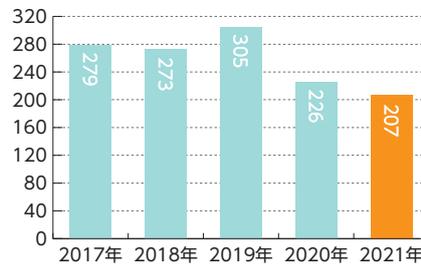
回収量

単位: (t)

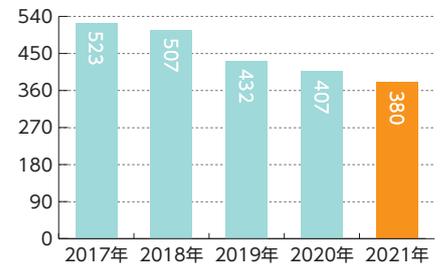
年度	2017	2018	2019	2020	2021
トレイ	279	273	305	226	207
牛乳パック	523	507	432	407	380
アルミ缶	671	675	618	621	603
ペットボトル	2,434	2,555	2,297	2,107	1,990
店舗数	192	182	157	143	136

※1種類以上回収している店舗数

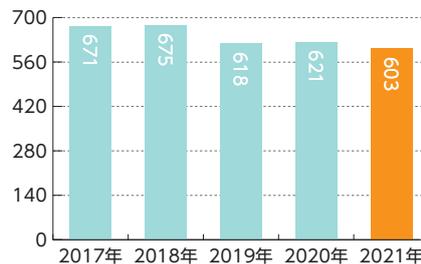
トレイ



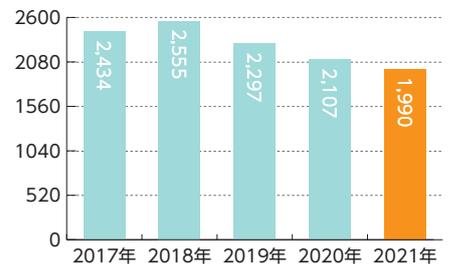
牛乳パック



アルミ缶



ペットボトル



世界中で食品廃棄は大きな問題であり、日本では食料自給率が40%に満たないにもかかわらず、毎日たくさんの食料を廃棄しています。ユニーでは、食品リサイクル法を遵守し、未利用食品を食品リサイクルループによる地域循環型農業で活用しています。

食品リサイクル実績

国への報告数値「再生利用等実施率」の2021年度の実績は87.9%でした。小売業の目標である60%を大きく上回っています。

リサイクル実績

※データは4月1日～翌年3月31日までのものです。

	2019年度			2020年度			2021年度		
	排出量(t)	リサイクル量(t)	リサイクル率(%)	排出量(t)	リサイクル量(t)	リサイクル率(%)	排出量(t)	リサイクル量(t)	リサイクル率(%)
店舗から発生する食品廃棄物(未利用食品)									
生鮮食品の調理クズ(野菜・果物など)、消費期限・賞味期限切れや飲食の食べ残し	10,508	7,438	70.8	8,517	6,034	70.8	8,410	6,740	80.1
魚のアラ(魚介類の調理クズや頭・骨や皮など)	1,694	1,613	95.2	1,374	1,316	95.7	1,355	1,355	100.0
廃食用油(使用済み揚げ油)	787	603	76.7	870	870	100.0	779	779	100.0
てんかす	1,019	1,019	100.0	652	501	76.8	746	485	65.0
合計	14,009	10,674	76.2	11,413	8,721	76.4	11,290	9,359	82.9

※端数を四捨五入しているため、合計数値と一致しない場合があります

食品リサイクルの推移

※データは4月1日～翌年3月31日までのものです。

	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
食品廃棄物発生量(t)	21,436	22,908	21,210	19,944	19,089	18,650	18,432	18,075	17,453	16,636	15,618	14,009	11,414	11,425
リサイクル量(t)	7,561	9,444	10,378	10,812	10,874	11,099	11,066	11,126	11,107	11,869	12,010	10,674	8,721	9,055
リサイクル率(%)	35.3	41.2	48.9	54.2	57.0	59.5	60.0	61.6	63.6	71.3	76.9	76.2	76.4	79.3
再生利用等実施率(%)※	47.3	48.9	59.0	64.1	66.5	69.6	69.7	72.9	74.9	80.6	85.1	84.8	86.6	87.9
食品廃棄物等の発生原単位(売上高百万円当りの発生量:kg)	35.8	39.0	35.6	34.7	34.2	32.8	33.0	31.3	30.4	29.9	28.4	28.2	25.0	25.77
発生原単位の対前年度比(%)	81.4	108.8	91.4	97.3	98.5	96.1	100.7	94.7	97.3	98.1	95.1	99.2	88.7	102.8

※当該年度の単純実施率に2007年度比の発生抑制を加味した値

地球温暖化の原因となるCO₂などの温室効果ガスの排出を防ぐため、日本は2030年度における削減目標を2013年度に比べ46%削減することをめざすことを表明しました。ユニーではお客さまと共に、普段のお買い物を通してCO₂の削減について考えていきます。

省エネルギー・省資源活動

エネルギー使用量の推移

※データは2017年度は2月21日～翌年2月20日まで、2018年度は2月21日～翌年2月28日まで、2019年度は3月1日～翌年2月29日まで、2020年度以降は4月1日～翌年3月31日までのものです。
※エネルギー使用量は店舗合計の数値



2021年度のCO₂排出係数は下記より換算しました。
●環境省温室効果ガス排出量 算定・報告・公表制度について 電気事業者別CO₂排出係数 (2019年度実績)
●サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース (Ver.3.0)

フロン排出抑制法への対応

地球温暖化とオゾン層破壊の原因になるフロンの排出抑制を目的に、フロン排出抑制法が2015年4月1日に施行されました。業務用エアコン、冷凍冷蔵機器の管理者に、機器およびフロン類の適切な管理が義務付けられました。

フロン類算定漏えい量 (t-CO₂)

※データは2021年4月1日～翌年3月31日までのものです。

フロン類の種類	R22	R404A	R410A	R407C	R32	R134a	合計
2021年度	8,106	5,292	3,012	2	1	0	16,413